

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4072900337		
法人名	有限会社 大原ウェルフェア		
事業所名	グループホーム 大原苑		
所在地 (電話番号)	小郡市大板井391-36		(電話) 0942-73-1218
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 2月 21日		

【情報提供票より】(平成20年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算	13.2人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)		(新築) 改築
建物構造	木造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円	有りの場合 償却の有無	有 (無)
食材料費	朝食	200 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 昼食代に含む 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年1月10日現在)

利用者人数	16 名	男性 3 名	女性 13 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	7 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.2 歳	最低 74 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山病院・嶋田病院・河原内科・福山泌尿器科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地に2ユニットのホームが寄り添うように建っている。隣接している併設保育園の園児達との交流も盛んで、園児達とふれあう元気な歌や明るい笑顔があふれている。利用者一人ひとりの個性を尊重し、主体性を持って楽しい日々がおくれるよう作品づくりや調理、洗濯物たたみなど、日常生活のあらゆる場面で職員の工夫が見られる。また、地域住民との交流にも積極的で今後更に地域に根ざしたホームとして発展することが期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果を管理者、職員で話し合っ具体的改善に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価項目の内容を検討して、問題点や項目の意義を話し合っ具体的改善に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、町内会代表者や市町村担当者から地域で生活している高齢者の思いや生活状況の説明を受け、ホームからは利用者の日常生活、行事内容など報告している。また、11月に開催した地域交流会への参加案内を推進会議参加者へ届けてサービス向上に取り組んでいる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	毎月ホーム便りで行事や暮らしぶりを個別に報告しており、家族面会時にも詳細に説明している。また、年1回開催している家族会や設置しているご意見箱で意見や不満が聞かれないため、家族面会時に職員が聞くようにしている。意見や苦情はその都度職員申し送り持やミーティングで話し合っサービスの質の向上に反映させている。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住民へ地域交流会開催案内を届けて11月に地域交流会を実施している。また、町内会の回覧板を届けたり、餅つき、敬老会などの地域行事へ積極的に参加して地域住民との交流を深めている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員は地域密着型サービスの意義を理解しているが、開設時につくられた理念のままで、見直しが行われていない。	○	制度改正後の地域密着型サービスとして位置づけられた地域との関係性を謳った理念への見直しが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が職員の見やすい位置に貼ってあり、更にミーティング時などに常に確認しあいながら、理念に基づいたケアの実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民へ地域交流会開催案内を届けて11月に地域交流会を実施している。また、町内会の回覧板を届けたり、餅つき、敬老会などの地域行事へ積極的に参加して、地域住民との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価項目の内容を検討して問題点や項目の意義を話し合っ、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、町内会代表者や市町村代表者から地域で生活している高齢者の思いや生活状況の説明を受け、宛からは利用者の日常生活、行事内容など報告している。また、11月に開催した地域交流会への参加案内を推進会議参加者へ届けてサービス向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の困難事例などを市町村担当者を訪ねて相談し、助言を求めて共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市の職員より家族、職員と一緒に地域権利擁護事業や成年後見制度について講義を受けており、必要な利用者には活用できるよう支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りで行事や暮らしぶりを個別に報告しており、家族面会時にも詳細に説明している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回開催している家族会やご意見箱で意見や不満が聞かれないため、家族面会時に職員が声かけをして聞くようにしている。意見や苦情はその都度職員申し送りやミーティングで話し合って反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者は利用者と職員の馴染みの関係の重要性を認識しているため、職員の離職は最小限に抑えている。やむを得ずユニット間での異動はあるが、その際、利用者との馴染みの関係づくりをしっかりとっている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時に年齢、性別等での排除はなく、また、職員が社会参加できるよう希望に応じて勤務体制が柔軟に組まれている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者と職員の日々の生活場面やその他具体的事例を基にミーティングや申し送りなどの機会に職員への啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医師会主催の介護研修会へ2～3ヶ月に1度管理者が参加して、それをもとに職員間で学習しているが、管理者以外の職員の外部研修の機会の確保が不十分である。	○	職員の質の確保、向上のためには年間計画に内外の職員研修を位置づけて、職員が働きながら学ぶ機会を確保することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は他事業所と交流する機会を得ているが、職員の交流や相互訪問活動等への取り組みは不十分である。</p>	○	<p>管理者や職員が地域の同業者と相互訪問して学習会や交流をすることでサービスの質の向上を目指して欲しい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族の訪問や見学のみでサービス利用開始になる場合は、職員が生活場所を訪ねて本人、関係者に会って状況把握に努め、安心してサービスを利用できるよう全職員で工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理や掃除、草花の手入れなど日常生活を共有するなかで人生の先輩としてその時々学ぶ機会が多く、共に支えあう関係を築いている。</p>		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の横に座り、体の調子や昔のことなどを聞きながら意向の把握を行っている。意思疎通の困難な場合は、行動やしぐさの中からその思いを汲み取るようにしている。また、入居時や面会時に家族からも聞き取りを行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向を十分に聞き取ると共に介護職員や看護師を交えて話し合い、日頃の介護の中での気づきや意見を取り入れて介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに職員で話し合いを行い、定期的に介護計画の見直しを行っている。また、入院や病気などで心身状態に変化が生じた時は、関係者で話し合いを行い、その都度見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて受診の付き添い介助を行ったり、遠方の家族の面会には食事を提供して宿泊を受け入れている。また、利用者の希望により買い物や外出支援を行い、家族との外出や外泊も勧めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医へ家族や職員の付き添いで受診している。家族との受診には日頃の健康状態をよく伝えるようにしている。また、月2回の協力病院の往診も受けられる。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては、入居時に「医療行為が必要でなければ受け入れる」とのホームの方針を家族へ説明している。重度化が予想される場合には早目に主治医、家族や本人と十分に話し合い、その都度対応するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対する態度や言葉づかいには十分注意し、失禁などの対応もさりげなく行っている。個人記録なども家族のみに開示し、外部者の目に触れない所に保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや希望を大切に、ゆったりと過ごせるようにしている。その人に合う楽しみを提供して、特技や力を発揮できるように努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を行事等の献立に取り入れ、食事が楽しみになるようにしている。毎日の食事には野菜の準備やテーブル拭き等それぞれができる事を手伝い、職員と共に食事が楽しめるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を行っているが、利用者の希望や必要に応じてシャワー浴や夜間の足浴なども行っている。「急がせない」をモットーとして、ゆったり入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や調理等の家事手伝い、散歩や外出、特技を活かした作品作り、計算ドリルなど、一人ひとりの能力に合った役割や楽しみを提供して発表の場を設けている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じて毎日近所への散歩を行い、ドライブや外食、買い物などの支援を行っている。また、家族との外出や外泊なども積極的に勧めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵の設備はなく、玄関は夜間以外は開放している。いつも見守りを行い、ホーム外に出たがる人には職員が後ろからついていく。夕方になると落ち着かない人は、職員と共に一緒に散歩を行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の指導の下で避難訓練や消火訓練を行い、2箇所の避難場所を確保している。初期消火や避難誘導を第一に考え、日頃から火を出さない努力をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事の提供を心がけて献立を作り、毎食の食事摂取量を把握している。毎月体重測定を行い、健康管理を行っている。食事以外にも各自が用意したペットボトルのお茶を飲み、水分補給を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の内外には季節の鉢植えの花が置かれ、日当たりの良い食堂の窓からは、中庭の菜園が眺められ、季節の野菜の観察ができる。廊下には利用者それぞれの作品が飾られ、食堂の横にはくつろげる畳の部屋も用意されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベットとダンスはホームの備え付けであるが、居室にはテーブルや椅子、テレビ等が持ち込まれている。自分で描いた絵画や作品などが飾られ、落ち着いて過ごせる部屋になっている。</p>		